

GIGAスクール構想の端末整備計画を前倒し

OGIGAスクール構想推進費 5億9,078万円

(概要) 令和4年度までに児童生徒1人当たり1台の教育用コンピュータ端末を整備する計画について、国の補助金が追加されたため、計画を前倒しし、早期に整備するための経費を計上するもの。

質疑 端末1台当たりの単価が地方公共団体によって異なるのはなぜか。

答弁 GIGAスクールパッケージには基本パッケージと応用パッケージがあり、地方公共団体によって導入するパッケージが異なるため。なお、本市は基本パッケージの導入を考えている。また、教育ICT環境基盤整備としてすでに導入している運用管理サポートが4,500台分であるのに対し、全児童生徒に端末が整備されると1万6,000台にのぼることから、その増加分に要する費用を含んでいる。



プロジェクターを用いた授業

質疑 全国の地方公共団体が一斉に端末の発注をすると、調達に時間を要するのではないか。

答弁 その可能性は考慮しており、文部科学省からも早急に調達の手続きを進めるよう説明があった。そのため、本市も必要な手続きを進め、できる限り早い時期に、児童生徒1人1台端末の環境を実現できるようにしたいと考えている。しかし、まだ校内通信ネットワークの整備が完了しておらず、これが完了しなければ端末が整備されても使用できないことから、校内通信ネットワークの整備を急いで進め、校内通信ネットワークの整備が完了する時期に合わせて端末を調達できるように考えている。

質疑 新型コロナウイルス感染症に伴う休校期間などにおける家庭での学習に対応するシステムの構築費用を含んでいるか。

答弁 GIGAスクール構想は、学校で児童生徒に対し個別最適化した教育を行うため、1人1台の端末を整備するもの。家庭におけるインターネット環境については、現在、市内の約2,000人の児童生徒の家庭において自宅にWi-Fi環境がないとの調査結果が出ている。そういった家庭の児童生徒も、学校に来ることで、通信量の制限なく端末を使用できるよう、1人1台の端末と校内通信ネットワークの整備を進めており、家庭での学習に対応するための予算の増額は、今回の補正予算には含んでいない。



小学校で始まったプログラミング教育